㉝中島川河川改修事業（歴史的石積と現代工法の融合）

受賞機関　長崎県 長崎振興局

キーワード　ソフト施策、長崎水害、石積みの歴史的価値保全

全建賞審査委員会の評価ポイント

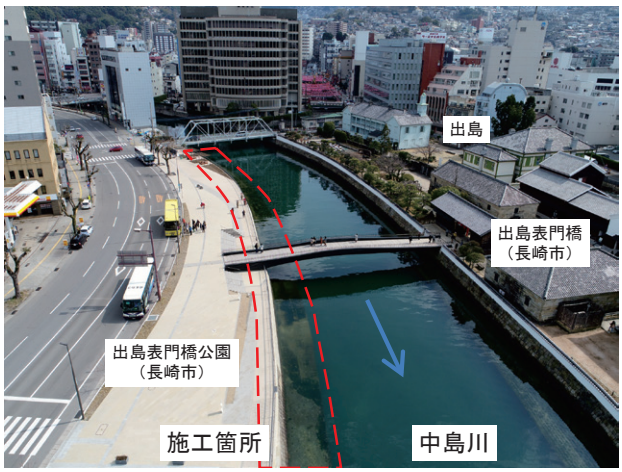
昭和57年の「長崎大水害」により、石橋の流失や家屋の倒壊、広範囲にわたる家屋浸水など甚大な被害を受けた中島川流域で、行政と学識者や石工の棟梁が参加した工程会議を開催しながら、文化的価値の高い護岸の改修を実施した取組み。

護岸の歴史的価値を損なわずに、現在の基準に合致するよう施工し、良好な景観形成の実現に寄与している点が評価された。

1. はじめに

中島川流域は昭和57年７月23日の「長崎大水害」により、石橋の流失、周辺家屋の倒壊及び広範囲にわたる家屋浸水など甚大な被害を受けた。この災害を契機に中島川河川改修事業として抜本的な治水対策を実施している。

中島川の河口付近には、明治時代における長崎県最大の土木工事であった第１次長崎港改修工事により築造された歴史的・文化的価値の高い中島川変流部護岸が現存しているが、本事業によりこの護岸を改修することとなった。この護岸の価値を損なわないようにしながら改修するため､｢工程会議」及び「施工監理」を立ち上げた。学識経験者・有識者をはじめ、施工業者、コンサルタント、文化財発掘調査受注者、関連工事施工者等の多数の関係者に参加いただき、工程調整をはじめとして石積護岸の施工方法の議論・決定や各工事間の取り合い調整など、様々な調整を行い、歴史的・文化的価値の高い当該石積護岸を、その価値を損なわないようにしつつ現代の土木工法により施工することに成功した。



工事箇所全景

2. 工程会議・施工監理の必要性

当工事個所では、河川改修工事の他に、埋蔵文化財発掘調査、出島表門橋架橋工事（長崎市）及び中島川公園整備工事（長崎市）が同時期・同箇所で行われることとなったため綿密な調整を行う必要があった。また、歴史的な石積を施工するにあたり、継続的に専門家の協力を得る必要があった。このため長崎振興局が主体となり｢工程会議」と「施工監理」を立ち上げて多数の工事・調査の進捗状況に応じた会議を定期的に行う体制を整えた。

3. 具体的に議論・検討した施工の工夫

「工程会議」及び「施工監理」において具体的に議論しながら進めた主要部分は以下の通り。

- ○再生材・新材を並べて現場でチェック。何度も積みなおし、OKが出てから次のステップへ。
- ○既設石積基礎を現地調査。明確な基礎構造物がなかったため、既設石積を間詰めコンクリートで一体化して基礎とするよう基礎構造を変更。
- ○水抜きパイプ及び目地が見えないように合端の奥に設置。また、胴込めコンクリート漏出防止のため石材間にバックアップ材を設置。

工程会議の様子

4. おわりに

「工程会議」は全17回、「施工監理」は全19回開催し、本工事及び周辺工事において学識経験者・有識者の意見を取り入れる重要な場となった。

会議室の内外で議論を積み重ねて工事間の調整と施工の工夫を行い、平成29年６月、無事に歴史的石積の施工が完了した。

賛助会員　扇精光コンサルタンツ㈱、竹下建設工業㈱